

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 05-020339

(43)Date of publication of application : 29.01.1993

(51)Int.Cl.

G06F 15/22

(21)Application number : 03-176819

(71)Applicant : FUJI XEROX CO LTD

(22)Date of filing : 17.07.1991

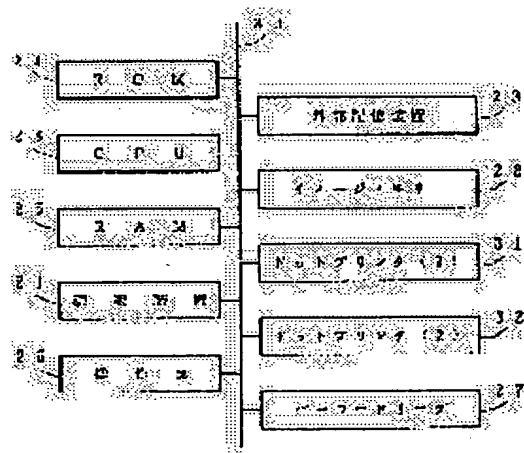
(72)Inventor : MINAMI HIDEKI

(54) SLIP ISSUING DEVICE

(57)Abstract:

PURPOSE: To easily check a slip by generating a sequence number for check which can discriminate individual slips even at the time of issuing slips in plural kinds of slip form.

CONSTITUTION: The slip sequence number of two kinds of slip set to dot printers 31 and 32 is read by a bar code reader 27. An application is read by a reader 21, and contents written on the application are transferred onto an image memory 22 based on transfer information of slips to generate print images of individual slips, and they are outputted to dot printers 31 and 32 to generate individual slips. A CPU 28 combines the application number of the application and the slip sequence number of each slip to generate the sequence number for check. In this case, additional data for adjustment of the number of digits is used to set a fixed length or data indicating the division is added.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

14.08.1997

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

3074802

[Date of registration]

09.06.2000

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19)日本国特許庁(JP)

(12)公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-20339

(43)公開日 平成5年(1993)1月29日

(51)Int.Cl.⁵

G 0 6 F 15/22

識別記号

庁内整理番号

7218-5L

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数3(全 10 頁)

(21)出願番号 特願平3-176819

(22)出願日 平成3年(1991)7月17日

(71)出願人 000005496

富士ゼロックス株式会社

東京都港区赤坂三丁目3番5号

(72)発明者 南 秀樹

埼玉県岩槻市府内3丁目7番1号 富士ゼ

ロックス株式会社岩槻事業所内

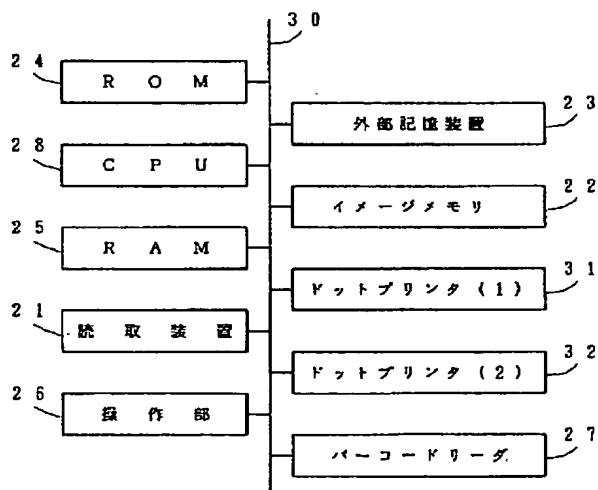
(74)代理人 弁理士 山内 梅雄

(54)【発明の名称】 伝票発行装置

(57)【要約】

【目的】 複数種の伝票フォームの伝票を発行する場合でも、個々の伝票を識別可能なチェック用通し番号を作成し、伝票のチェックを容易にする。

【構成】 ドットプリンタ31、32にセットされた2種類の伝票の各伝票通し番号をバーコードリーダ27によって読み取る。読取装置21によって申込票を読み取り、申込票に記載された内容を伝票の転記情報を基にイメージメモリ22上に転記して個々の伝票の印字イメージを作成し、これをドットプリンタ31または32に出力し、個々の伝票を作成する。また、CPU28によって、申込票の申込票番号と各伝票ごとの伝票通し番号とを組み合わせるための付加データを用いて固定長にしたり、区切りを示すデータを付加するようにする。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 入力帳票に記入されたデータを読み取る読取手段と、

この読取手段によって読み取られたデータを、複数種の伝票フォームのいずれかに対応するように編集する画像編集手段と、

この画像編集手段によって編集されたデータを伝票用紙に印刷する印刷手段と、

前記入力帳票の番号と複数種の伝票フォームごとの通し番号とを組み合わせ、前記印刷手段によって印刷された個々の伝票を識別するためのチェック用通し番号を作成するチェック用通し番号作成手段とを具備することを特徴とする伝票発行装置。

【請求項2】 入力帳票に記入されたデータを読み取る読取手段と、

この読取手段によって読み取られたデータを、複数種の伝票フォームのいずれかに対応するように編集する画像編集手段と、

この画像編集手段によって編集されたデータを伝票用紙に印刷する印刷手段と、

前記入力帳票の番号と複数種の伝票フォームごとの通し番号と桁数を合わせるための付加データとを組み合わせ、前記印刷手段によって印刷された個々の伝票を識別するための固定長のチェック用通し番号を作成するチェック用通し番号作成手段とを具備することを特徴とする伝票発行装置。

【請求項3】 入力帳票に記入されたデータを読み取る読取手段と、

この読取手段によって読み取られたデータを、複数種の伝票フォームのいずれかに対応するように編集する画像編集手段と、

この画像編集手段によって編集されたデータを伝票用紙に印刷する印刷手段と、

前記入力帳票の番号と複数種の伝票フォームごとの通し番号とを組み合わせると共に、区切りを示すデータを付加して、前記印刷手段によって印刷された個々の伝票を識別するための可変長のチェック用通し番号を作成するチェック用通し番号作成手段とを具備することを特徴とする伝票発行装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、申込票や注文書等の入力帳票に記入されたイメージを読み取って、これを編集し、伝票用紙に印刷することで伝票の発行を行う伝票発行装置に係わり、特に2種類以上の伝票を発行することのできる伝票発行装置に関する。

【0002】

【従来の技術】 申込票等に記入されたイメージを読み取って、これを編集し、伝票用紙に印刷する伝票発行装置では、伝票等の問い合わせに応じるため、あるいは、発

行伝票の数の確認や、発行伝票の重複・抜けがないか等の確認のため、特公昭63-55099号公報に示されるように、伝票の通し番号を作成するようにしている。この通し番号は、例えば連続した形でデパート等の伝票発行元のホストコンピュータに送られ、記憶される。そして、必要に応じて、このホストコンピュータにおいて検索用のプログラムによって検索される。

【発明が解決しようとする課題】

【0003】ところで、1つのデパートが商品を配送する場合、自店で配送したり配送会社を利用したり、あるいは複数の配送会社を利用したりすることがあり、このような場合には、複数種の伝票フォームの伝票を発行する必要がある。そこで、複数種の伝票フォームの伝票を発行可能で、申込票に記入されたデータを、どの伝票フォームに印字するか選択できるようにした伝票発行装置もある。通常、複数種の伝票フォームに印字する場合には、それぞれの伝票フォームの印字情報等を持った複数のプログラムが必要になる。このように複数のプログラムによって複数種の伝票フォームの伝票を発行した場合には、各伝票フォームごとに異なる系列のチェック用通し番号が作成されるので、検索に不便である。

【0004】また、複数種の伝票フォームの印字情報等を持つ1つのプログラムによって複数種の伝票フォームの伝票を発行できるようにした伝票発行装置もある。しかしながら、各伝票の通し番号は配送会社等によって異なるため、各伝票フォームごとの通し番号の桁数が異なる場合がある。このような場合に各伝票フォームごとの通し番号をチェック用通し番号として用い、これを連続した形でホストコンピュータに送ると、チェック用通し番号の区切りが分からなくなるので、従来は、各伝票フォームごとの伝票の発行だけを行い、チェック用通し番号は作成していなかった。

【0005】しかしながら、デパート等の伝票発行元では、発行された個々の伝票について重複や抜けがないことのチェックが厳重に行われており、また、伝票等の問い合わせにも応じる必要があり、チェック用通し番号が作成されなかったり複数の系列のチェック用通し番号が作成されたりすると、伝票のチェックに多くの労力と時間を費やことになり、チェック用通し番号の作成およびチェック用通し番号の一本化が強く望まれている。

【0006】しかし、仮に、伝票フォームの種類に係わらず単に連続したチェック用通し番号を作成したとしても、そのチェック用通し番号によっては、どの申込票のデータに基づく伝票なのか、あるいはどの伝票フォームに印字した伝票なのかが不明であり、また、各伝票フォームごとの伝票発行枚数や、発行伝票の重複・抜けの確認ができない。

【0007】そこで本発明の目的は、複数種の伝票フォームの伝票を発行する場合でも、個々の伝票を識別可能なチェック用通し番号を作成することができ、伝票のチ

チェックを容易にすることのできる伝票発行装置を提供することにある。

【０００８】請求項１記載の発明の伝票発行装置は、入力帳票に記入されたデータを読み取る読取手段と、この読取手段によって読み取られたデータを、複数種の伝票フォームのいずれかに対応するように編集する画像編集手段と、この画像編集手段によって編集されたデータを伝票用紙に印刷する印刷手段と、入力帳票の番号と複数種の伝票フォームごとの通し番号とを組み合わせ、印刷手段によって印刷された個々の伝票を識別するための

チェック用通し番号を作成するチェック用通し番号作成手段とを備えたものである。

【０００９】この伝票発行装置では、入力帳票に記入されたデータは読取手段によって読み取られ、画像編集手段によって、複数種の伝票フォームのいずれかに対応するように編集され、印刷手段によって伝票用紙に印刷される。また、チェック用通し番号作成手段によって、入力帳票の番号と複数種の伝票フォームごとの通し番号とを組み合わせ、個々の伝票を識別するためのチェック用通し番号が作成される。

【００１０】請求項２記載の発明の伝票発行装置は、請求項１記載の発明において、チェック用通し番号作成手段が、入力帳票の番号と複数種の伝票フォームごとの通し番号と桁数を合わせるための付加データとを組み合わせ、固定長のチェック用通し番号を作成するようにしたものである。

【００１１】請求項３記載の発明の伝票発行装置は、請求項１記載の発明において、チェック用通し番号作成手段が、区切りを示すデータを付加して、可変長のチェック用通し番号を作成するようにしたものである。

【００１２】

【実施例】以下、図面を参照して本発明の実施例について説明する。図１ないし図１０は本発明の一実施例に係る。

【００１３】図１は本実施例の伝票発行装置の概略の構成を示す機能ブロック図である。この図に示すように、本実施例の伝票発行装置は、申込票に記入されたデータを画像情報として読み取る読取手段１１と、この読取手段１１で読み取った入力画像情報を記憶する画像情報記憶手段１２と、この画像情報記憶手段１２に接続され、画像情報や印字情報等を記憶する２次記憶手段１３と、伝票用紙から伝票通し番号を読み取る伝票通し番号読取手段１４と、２次記憶手段１３および伝票通し番号読取手段１４に接続され、入力画像情報中の申込票の番号と伝票通し番号読取手段１４で読み取った伝票通し番号とを組み合わせ、チェック用通し番号を作成するチェック用通し番号作成手段１５と、画像情報記憶手段１２、２次記憶手段１３および伝票通し番号読取手段１４に接続され、入力画像情報やその他の情報を用いて、入力画像情報を複数種の伝票フォームのいずれかに対応するよう

に編集して伝票画像情報を作成したり、入力画像情報中の数字やマークを認識したりする画像編集手段１６と、この画像編集手段１６に接続され、画像編集手段１６で作成された伝票画像等を印字する出力手段１７とを備えている。

【００１４】この伝票発行装置では、申込票に記入されたデータは読取手段１１によって読み取られ、入力画像情報として画像情報記憶手段１２に記憶される。画像編集手段１６は、入力画像情報を複数種の伝票フォームのいずれかに対応するように編集して伝票画像情報を作成し、画像情報記憶手段１２に記憶させる。この処理の際に必要なデータは２次記憶手段１３に記憶される。また、画像編集手段１６は、入力画像情報中の申込票の番号を認識し２次記憶手段１３に記憶させる。一方、伝票通し番号読取手段１４によって伝票用紙から伝票通し番号が読み取られ、チェック用通し番号作成手段１５は、２次記憶手段１３に記憶されている申込票の番号と伝票通し番号読取手段１４で読み取った伝票通し番号とを組み合わせ、チェック用通し番号を作成し、２次記憶手段１３に記憶させる。また、画像編集手段１６は、作成した伝票画像情報を出力手段１７に送り、この出力手段１７によって伝票画像を伝票用紙に印字させる。

【００１５】次に、図２を用いて、本実施例の伝票発行装置の具体的な構成について説明する。この図に示すように、本実施例の伝票発行装置は、申込票のイメージを読み取る読取装置２１と、この読取装置２１で読み取った入力画像や編集された画像や２種類の伝票フォームに対応する伝票転記情報等を格納するイメージメモリ２２および外部記憶装置２３と、システムを動作させるプログラムを格納したリード・オンリ・メモリ（以下、ROMと記す。）２４と、外部記憶装置２３からロードされた伝票発行のためのプログラムやこのプログラム実行の際に必要なデータを格納するランダム・アクセス・メモリ（以下、RAMと記す。）２５と、プログラムの操作をする操作部２６と、バーコードで記入されている伝票の通し番号を読み取るためのバーコードリーダ２７と、伝票画像を互いに異なるフォームの伝票用紙に印字させるドットプリンタ（１）３１およびドットプリンタ（２）３２と、以上の各構成要素を制御する中央処理装置（以下、CPUと記す。）２８とを備えている。以上の各構成要素は、互いにバス３０によって接続されている。

【００１６】図１の画像読取手段１１、画像情報記憶手段１２、２次記憶手段１３、伝票通し番号読取手段１４、出力手段１７は、それぞれ、図２の読取装置２１、イメージメモリ２２、外部記憶装置２３およびRAM２５、バーコードリーダ２７、ドットプリンタ（１）３１およびドットプリンタ（２）３２に対応する。また、図１のチェック用通し番号作成手段１５および画像編集手段１６は、図２のCPU２８が所定のプログラムを実行

することによって実現される。

【0017】図4は入力画像情報の原稿となる申込票の例を示す。この申込票40には、その申込票の番号41と、一つの依頼主欄42と、複数の届け先、商品および金額の欄43と、この欄43ごとに設けられ、2種類の伝票フォームのうちのどちらの伝票に印字するかを決めるための個伝票選択マーク欄44が設けられている。本実施例では、個伝票選択マーク欄44が塗られているか否かでどちらの伝票フォームの伝票に印字するかを選択するようになっており、個伝票選択マーク欄44が塗られていないときには欄43の記載内容を第1の伝票（以下、伝票（1）と記す。）のフォームに転記し、個伝票選択マーク欄44が塗られているときには欄43の記載内容を第2の伝票（以下、伝票（2）と記す。）のフォームに転記するものとする。

【0018】図5、図6はそれぞれ伝票（1）51、伝票（2）52の例を示す。各伝票共、ミシン目53を境にして、同一フォームが予め繰り返し印刷された長尺の伝票であり、それぞれ、申込票40のイメージから転記される届け先欄54と、商品および金額の欄55と、依頼主欄56を有すると共に、予め、バーコードによって伝票通し番号57が連続して印刷されている。また、伝票（1）51、伝票（2）52は、それぞれ、図2のドットプリンタ（1）31、ドットプリンタ（2）32にセットされている。

【0019】各伝票51、52のフォームにおける転記欄の転記位置等の転記情報と、各伝票51、52がどのドットプリンタにセットされているかの情報は、予めデータとして外部記憶装置23に与えられている。

【0020】次に、図3のフローチャートを用いて本実施例の伝票発行装置の動作について説明する。この伝票発行装置は、まず、ステップ（以下、Sと記す。）101で、バーコードリーダ27によって、各伝票51、52に印刷されているバーコードを読み取って入力し、伝票通し番号を読み取る。このバーコードの入力は、印字する伝票の種類の数だけ、すなわち接続されているプリンタの台数分だけ行われる。本実施例では、バーコードの入力は2回であり、まず、ドットプリンタ（1）31にセットされている最初の伝票（1）51の通し番号57を入力し、次に、ドットプリンタ（2）32にセットされている伝票（2）52の最初の通し番号57を入力する。このバーコードの入力は、例えば、各ドットプリンタのカバーを開けて、バーコードリーダ27を各伝票51、52のバーコードにつきあてて行う。このバーコード入力処理によって、各伝票51、52の通し番号の開始番号が設定される。それ以降の通し番号は連続であるため、一つの伝票を発行するごとに伝票発行装置側で通し番号を一つ増加させることにより、バーコード入力を行うことなく目的の伝票の通し番号が得られる。

【0021】次に、S102で申込票40の有無を判断

し、無い場合は終了する。有る場合は、S103で読取装置21によって申込票40を読み取り、イメージメモリ22（図1の画像情報記憶手段12）に格納し、S104でCPU28（図1の画像編集手段16）によって申込票のイメージから申込票番号41を認識する。次に、S105でCPU28によって、未処理届出先の有無を判断し、無い場合はS102へ戻り、次の申込票の処理を行う。有る場合は、S106でCPU28（画像編集手段16）によって申込票のイメージから個伝票選択マークの有無（個伝票選択マーク欄44が塗られているか否か）を判断する。

【0022】S106で、個伝票選択マークが無い場合には、印字は伝票（1）51に行われる。この場合には、S107でCPU28（画像編集手段16）によって、伝票（1）の転記情報を基に申込票40の各欄42、43に記載された内容をイメージメモリ22上に転記し、伝票（1）の1枚の伝票（以下、個伝票（1）と記す。）の印字イメージを作成する。次に、S108でその個伝票（1）に伝票（1）の通し番号を割当て、S109で伝票（1）の通し番号を1増加し、S110でCPU28（図1のチェック用通し番号作成手段14）によって、申込票番号とS108で割り当てた伝票

（1）の通し番号とからチェック用通し番号を作成する。次に、S111で、伝票（1）がセットされているドットプリンタ31に個伝票（1）の印字イメージを出力し、個伝票（1）を作成する。

【0023】S106で、個伝票選択マークが有る場合には、印字は伝票（2）52に行われる。この場合の処理は伝票（1）51の場合と同様である。すなわち、S112で伝票（2）の転記情報を基に申込票40の各欄42、43に記載された内容をイメージメモリ22上に転記し、伝票（2）の1枚の伝票（以下、個伝票（2）と記す。）の印字イメージを作成する。次に、S113でその個伝票（2）に伝票（2）の通し番号を割当て、S114で伝票（2）の通し番号を1増加し、S115で申込票番号とS113で割り当てた伝票（2）の通し番号とからチェック用通し番号を作成する。次に、S116で、伝票（2）がセットされているドットプリンタ32に個伝票（2）の印字イメージを出力し、個伝票（2）を作成する。

【0024】S111またはS116で、個伝票（1）または個伝票（2）の作成が終了したら、S105へ戻る。図4に示すように、申込票40は、一人の依頼主で複数人に商品をお届けることができるような形式になっており、届出先の欄43が複数あるため、未処理の欄がなくなるまで、S105ないしS116の処理を繰り返し、全ての欄43に対して伝票作成後（S105で無）、S102へ戻り、次の申込票40の処理に移る。そして、この処理を申込票が無くなるまで繰り返し、無くなった（S102で無）、終了する。

【0025】次に、図7を参照して、図3のS110、S115におけるチェック用通し番号の作成について説明する。チェック用通し番号は、申込票40の申込票番号41と各伝票51、52ごとの伝票通し番号とを組み合わせで作成される。図7は、届け先が5欄の申込票40を用いて2種類の伝票51、52を発行したときのチェック用通し番号の作成方法を示している。ここでは、入力された申込票は2枚でそれぞれ4桁の申込票番号“9001”と“9002”を持ち、伝票(1)51の通し番号は8桁で“11000001”から始まり、伝票(2)52の通し番号は10桁で“2200000001”から始まるものとする。また、申込票40の各届け先欄43の伝票(1)51、伝票(2)52への振り分けは図7に示すように行われたものとする。

【0026】チェック用通し番号は、個々の伝票を識別するため、その番号からオリジナルの申込票40の申込票番号と伝票通し番号とが分かることが作成の条件とされる。そのため、この例では、単に申込票番号の後ろに伝票通し番号を続けて、チェック用通し番号を作成するものとする。このようにしてチェック用通し番号が一本

【0027】ところで、従来、チェック用の番号は例えば連続した形で後処理にまわされるようになっていた。例えば、チェック用の番号はホストコンピュータに送られて記憶され、必要に応じて、このホストコンピュータにおいて検索用のプログラムによって検索される。ところが、本実施例のように伝票通し番号の桁数が異なる2種類以上の伝票を発行する場合には、従来通りチェック用の番号を作成したのでは、この番号を図10に示すように連続した形でホストコンピュータに送ると、データ検索時にデータの区切りが分からず、データを読み出せない状態になってしまう。

【0028】そこで、本実施例では、発行する複数種の伝票の通し番号のうち最大桁数のものに桁数を合わせることで、チェック用通し番号の桁数を統一している。すなわち、伝票(1)51の通し番号が8桁、伝票(2)52の通し番号が10桁なので、図8に示すように、伝票(1)51に対応するチェック用通し番号には、末尾に特殊文字(例えば「\$」マーク)を2つ付加してチェック用通し番号を固定長にしている。これにより、データの区切りが一定になり、後処理でデータを読み出すことができるようになる。

【0029】なお、図9に示すように、全てのチェック用通し番号の末尾に、データの区切りを示す特殊文字(例えば「\$」マーク)を1つ付加して、チェック用通し番号を可変長にしても良い。この場合、後処理では特殊文字を認識することでデータの区切りを認識することができる。この方法によれば、各伝票の通し番号の桁数が大きく異なる場合には、図9に示す例に比べてチェック用通し番号のデータ量が少なくなる。

【0030】このように本実施例によれば、複数種の伝票フォームの伝票を発行する場合でも、個々の伝票を識別可能な一本化されたチェック用通し番号を作成することができ、このチェック用通し番号によって、どの申込票のデータに基づく伝票なのか、あるいはどの伝票フォームに印字した伝票なのかが分かる。従って、伝票発行における重複や抜けのチェックが簡単になり、それに費やしていた労力と時間を軽減することができる。

【0031】なお、本発明は上記実施例に限定されず、例えば上記実施例では、伝票フォームが予め印刷されている長尺の伝票用紙を用いているが、この伝票用紙の代わりに、何も印刷されていない用紙を用いると共に、各伝票51、52のフォームを2次記憶手段13等に保持しておき、伝票イメージ作成時にこのフォームと申込票からの転記内容とを合成して印刷し、伝票を発行するようにしても良い。この場合には、プリンタは必ずしも複数台必要ではなく、1台のプリンタで複数の伝票フォームの伝票を作成することが可能となる。

【0032】また、上記実施例では、各伝票に伝票通し番号がバーコードの形で印刷され、この伝票通し番号をバーコードリーダで読み取って入力するようにしているが、伝票発行装置側で伝票通し番号を管理し、伝票ごとに通し番号を発行するようにすれば、伝票通し番号の読取手段は必要なくなる。

【0033】また、チェック用通し番号に、「お客様番号」や「伝票発行日時」等を付加することによって、より多様な検索が可能となる。また、チェック用通し番号と伝票転記内容とを対応付けて記憶するようにしても良い。

【0034】

【発明の効果】以上説明したように請求項1記載の発明によれば、入力帳票の番号と複数種の伝票フォームごとの通し番号とを組み合わせでチェック用通し番号を作成するようにしたので、複数種の伝票フォームの伝票を発行する場合でも個々の伝票を識別可能なチェック用通し番号を作成することができ、伝票のチェックを容易にすることができるという効果がある。

【0035】また、請求項2または3記載の発明によれば、チェック用通し番号を作成する際、桁数を合わせるための付加データを用いて固定長にしたり、区切りを示すデータを付加するようにしたので、上記効果に加え、伝票フォームごとの通し番号の桁数が伝票フォームごとに異なる場合でも、チェック用通し番号の区切りが明確になるという効果がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の一実施例の伝票発行装置の概略の構成を示す機能ブロック図である。

【図2】 一実施例の伝票発行装置の構成を示すブロック図である。

【図3】 一実施例の伝票発行装置の動作を示すフロー

チャートである。

【図4】 入力原稿となる申込票の例を示す説明図である。

【図5】 第1の伝票の例を示す説明図である。

【図6】 第2の伝票の例を示す説明図である。

【図7】 一実施例の伝票発行装置におけるチェック用通し番号の作成方法を示す説明図である。

【図8】 一実施例の伝票発行装置によって作成されたチェック用通し番号の一例を示す説明図である。

【図9】 一実施例の伝票発行装置によって作成された

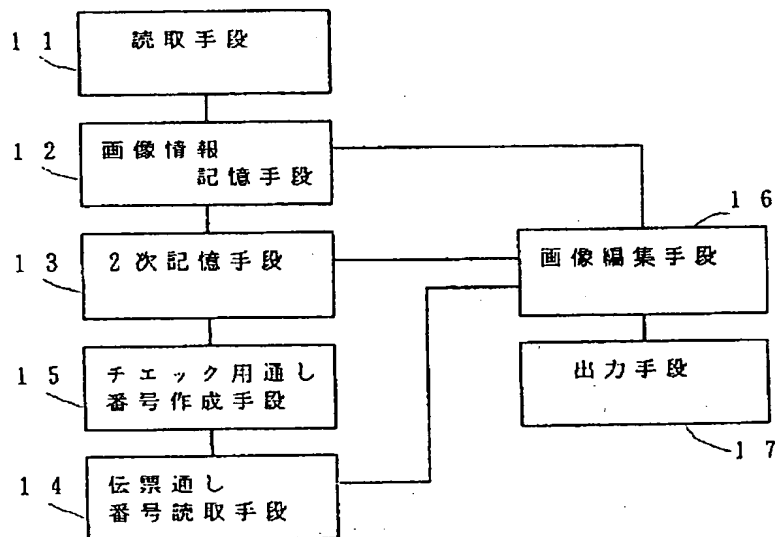
チェック用通し番号の他の例を示す説明図である。

【図10】 一実施例との比較のために示すチェック用通し番号の例を示す説明図である。

【符号の説明】

11…読取手段、12…画像情報記憶手段、14…伝票通し番号読取手段、15…チェック用通し番号作成手段、16…画像編集手段、17…出力手段、21…読取装置、22…イメージメモリ、23…外部記憶装置、27…バーコードリーダ、28…CPU、31、32…ドットプリンタ

【図1】



【図4】

○△百貨店 申込票

9001

<依頼主>

42

<届け先1> 商品 金額

43

44

伝票

<届け先2> 商品 金額

伝票

【図8】

900111000001\$\$\$9001220000000190012200000002

90012200000003900111000002\$\$\$900211000003\$\$

900211000004\$\$\$9002220000000490022200000005

900211000005\$\$

【図9】

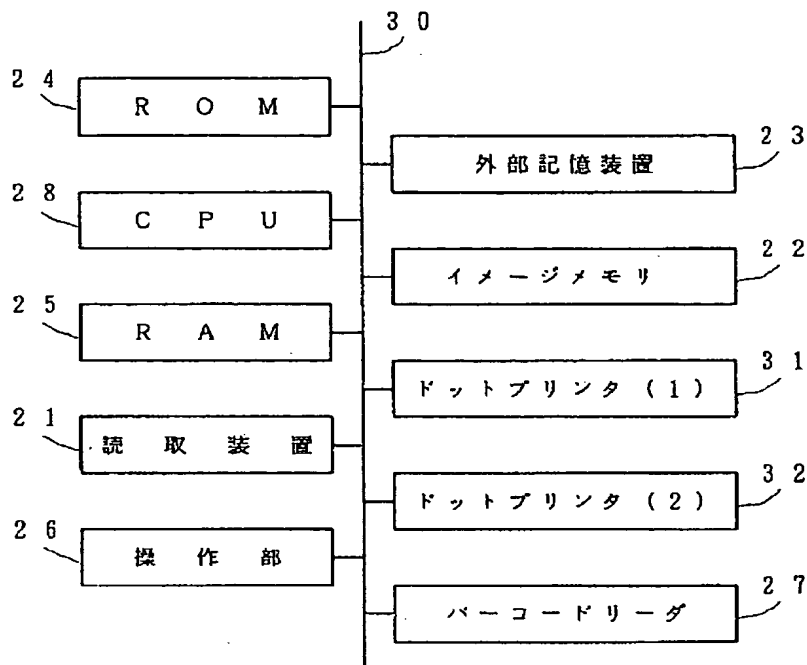
900111000001\$\$\$90012200000001\$\$\$90012200000002

\$90012200000003\$900111000002\$900211000003\$

900211000004\$90022200000004\$90022200000005

\$900211000005\$

【図2】

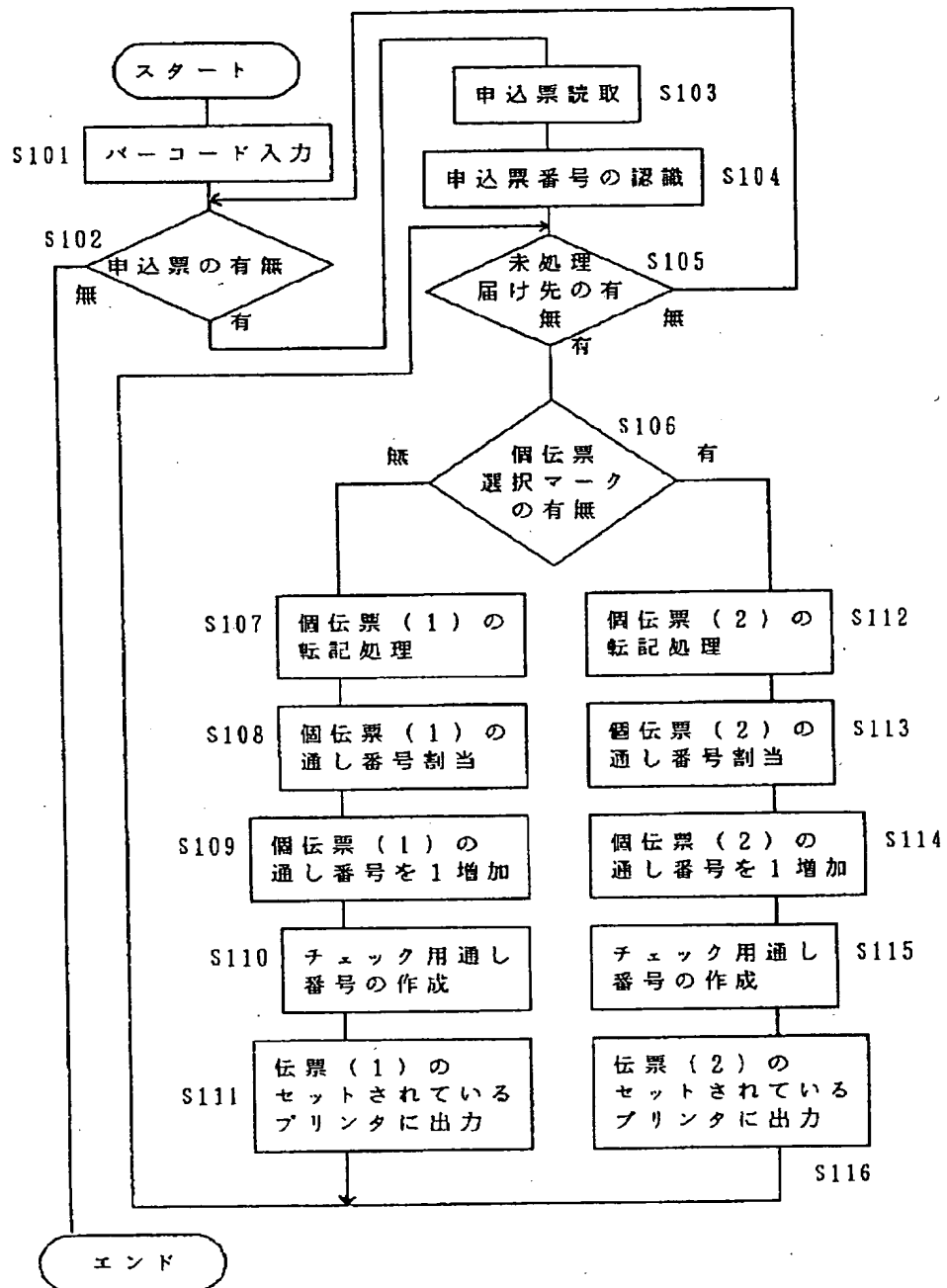


【図5】

【図10】

900111000001900122000000019001220000000290
 012200000003900111000002900211000003900211
 000004900222000000049002220000000590021100
 0005

【図3】



【図6】

The diagram illustrates a shipping label form with two identical sections. Each section is defined by a dashed line and contains the following elements:

- Destination Field (52):** A large rectangular box labeled "届け先" (Destination) with "様" (Honorable) at the bottom right.
- Item Details Table (54):** A table with two columns: "商品" (Item) and "金額" (Amount). It has three rows, with the first row containing the headers.
- Shipping Charge Field (55):** A rectangular box labeled "送料" (Shipping Charge).
- Barcode (57):** A standard 1D barcode with the numbers 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 printed below it.
- Sender Field (56):** A rectangular box labeled "依頼主" (Sender) with "様" (Honorable) at the bottom right.
- Shipping Method (53):** Three circles followed by the text "運輸" (Shipping).

The form is bordered by a series of small circles on the left and right sides. The bottom section of the form is partially cut off by a wavy line.

【図7】

[申込票番号]	[伝票(1)の伝票通し番号]	[伝票(2)の伝票通し番号]	[チェック用通し番号]
9001	(届け先1) 11000001	(届け先2) 2200000001	9001-11000001
	(届け先3) 2200000002	(届け先4) 2200000003	9001-2200000001
	(届け先5) 11000002		9001-2200000002
9002	(届け先1) 11000003		9001-2200000003
	(届け先2) 11000004		9001-11000002
		(届け先3) 2200000004	9002-11000003
		(届け先4) 2200000005	9002-11000004
	(届け先5) 11000005		9002-2200000004
			9002-2200000005
			9002-11000005